

# 教 え 子 を 再 び 戦 場 に 送 る な !

## 2010年度の一時金

B評価	1. 25月+0. 685月
合計	1. 935月
S評価	1. 25月+0. 799月
合計	2. 049月
A評価	1. 25月+0. 742月
合計	1. 992月

6月30日に、ボーナスが支給されました。09年度から一時金が0.35月削減。今回さらに4%のカットです。一時金は、期末手当(1.25月)と勤勉手当を合算されていますが、勤勉手当は、学校長による「評価」によって違ってきます。

「評価」でボーナスに差をつけられないで!

### SとAを優遇するための財源

- ①全教職員の勤勉手当を0.015月削減  
(3億948万円)
- ②扶養手当を勤勉手当算出額から除く。  
(2億9106万円)  
合計6億54万円

S評価・A評価者を優遇するために一人平均12586円の勤勉手当を削減しています。また、C評価・D評価者に対する減額によって、府は2400万円(学校分)もの勤勉手当を減らしており、成果主義賃金の導入に

よって総人件費が抑えられている実態です。

市町村立学校の09年度の評価では、B評価が5割強、SとAで5割近くです。半数を超える人のお金を吸い上げて、別の人にばらまきやり方をこれからも続けさせていいのでしょうか。

さらに橋下知事は、「財政構造改革プラン」なる公務員制度改革と給与抑制の計画を立案中です。

新たに、府独自の給料表や人事評価制度をさらに見直して、格差を拡大することを考えているようです。

公務員人件費2割カットが昨年総選挙での民主党の公約でした。それに呼応するかのような「改悪」を許すわけにはいきません。



2010年7月2日

N0、455

# とよなか

全教豊中教職員組合

〒561-0874

豊中市長興寺南3-5-2

TEL (06) 6865-3190 FAX (06) 6865-3191

Eメール zenkyo-toyonaka@tcct.zaq.ne.jp

Web ページ

<http://www.tcct.zaq.ne.jp/zenkyo-toyonaka/>

# 橋下知事に対して「もっと働きやすい大阪に！」 の声を府民と共に上げましょう！」

府労組連は、五月三十一日に橋本知事に要求書を提出して数次の折衝・交渉を行なってきました。今季夏季闘争の成果と課題について考えたいと思います。

## 3年で1400億円の賃金カット……悪魔のサイクルを突き進む大阪経済

六月三十日に期末手当で二・二五割、勤勉手当〇・六八五割が特例条例（四割カット）に基づき支給されました。大阪府の職員はこの三年間だけで給与・旅費等のカット分で一・二〇〇億円、一時金のカット分で二・〇〇億円、合計一・四〇〇億円もカットされています。

この間、大阪経済は失業率七・七割と全国平均を大きく上回り、実質賃金の減少も全国平均二・五割に比べて三・一割となつています。これは大阪府職員の二・四〇〇億円も

の給与のカットが民間労働者の賃金カットの口実に利用され、このことが大阪の消費をさらに冷え込ませ、中小零細企業の倒産をまねき、失業者を増大させ、それが大阪府財政の収入をさらに減少させるというまさに悪魔のサイクルに陥っていることを示しているのではないのでしょうか？

この悪魔のサイクルから抜け出すためには給与カットにストップをかけ、閑空二期工事などの大型公共事業を止め、保育所建設等生活密着型の公共事業に切りかえる以外に道はないのではないのでしょうか。

## 廃止となる保育特休（30分） 利用者の勤務はどうなる？

今季の夏季闘争で私たちの粘り強い職場からの運動によつて「勤務時間十五分短縮の十月実施」「子の看護休暇の拡充（六月三十日から中学就学前の子が複数いる場合、六日から十日に拡充）」「短期の介護休暇の創設（現行の介護欠勤制度は存続させながら、六月三十日から要介護者一人の場合は五日、二人以上の場合は十日取得できるよう創設）」

「介護のために退職した教員の再採用について今年度内に制度の創設に向けて検討」など一定の前進をすることができました。しかし、保育休暇（三十分）については、廃止の撤回、廃止時期の年度内延長等、勤務時間十五分短縮に伴う残り十五分の確保を迫りましたが、当局は「育児に係る早出遅出勤務を導入する」にとどまりました。

「勤務時間の十五分短縮」が十月実施に移された場合、現在豊中市では「勤務時間は四時半まで」となっているので、これを「四時十五分まで」とする確認が必要となります。また、早出遅出勤務の導入にあたっても利用者に不利益がないようにする必要があります。

しかし、保育休暇（三十分）

# ドラえもんの会に行こう！

職場で、このマーク

ドラえもんのポケットの様に、色々なネタが出せる教師を目指そうということではじまった青年教師中心の「ドラえもんの会」。

今まで【学級通信・授業ネタ・お勧めの絵本】などなど、様々な内容で交流をしてきました。

また、BBQや潮干狩りなど、楽しいイベントも行っています。

6月25日（金）には、【所見】についての学習会を行いました。教師1年目の方から、ベテランの方まで14名の参加がありました。自分が今までに書いた所

見をもとに、それぞれの書き方を交流しました。普段は、他の先生の書いたものをなかなか見る機会がない所見ですが、「それ、いい！」と思わされる言葉や書き方などを発見することができました。

最後に、みんなで実際に所見を書いてみることにしました。全員が知っている子どもについて・・・。ドラえもんの会ということで、ジャイアンに決まりました。みなさん、真剣な表情で、ジャイアンのいいところを探して、すばらしい所見を書いてくれました。ひとつ紹介します。

『いつも元気でいんしようてきな剛田さん。自分の好きなことにうちこめるところもとってもいいですね。友だちをこまらせてしまう場面もありました。友だちや妹思いのやさしい心がすてきです。これからもその心を持ち続けてください。』

（寺内小 女性）

どんな子にも、良いところがきつとあるはずですから、それを伝える方法として所見というものを上手に使えるといいなと思いました。

今回のドラえもんの会も、参加者全員で楽しく交流でき、充実した時間を送ることができました。これからも、学習会やイベントも行っていきます。



のチラシを見たら、ドラえもんの会ですので、気軽に参加してみてください。たくさんのご参加、お待ちしております。

（北条小 高橋信也）



連続教育講座「POWER UP講座」第6回  
国語講座 「文学教材を学ぼう」

6月19日、福祉会館

で野澤正美さん（文芸研副会長・文芸研枚方サークル・津田小）の国語講座を開催、30名近い参加がありました。

- 3年『かさこじぞう』、5年『ちかい』の2つの教材を例に、授業のすすめ方
- ① 題名読み
  - ② 教師の読み聞かせによる初めの感想
  - ③ 子どもといっしょに書いてあることから読み取り
  - ④ まとめよみ・感想



登場人物の言ったこと・したことから、登場人物に同化し、共感する。次に、自分が登場人物をどう思うかを考えることで、人間を学んでいくことが国語科教育の目的。そのためには、教師の教材分析が重要であることを痛感させられました。

「国語の授業展開に行きづまっていたので、話をたっぷり聞けてうれしかったです。教材をじっくり読んで、学級の実態に合った展開を今日からがんばります。」  
（緑地小 女性）  
「登場人物の気持ちになって



読み取らすことはしていませんが、それを見て自分はどう思おうかをしていなかった。大切なんだと思いました。」  
（西丘小 女性）

「1年生でまだ物語文など入っていませんが、人物像をとらえることで進めていくことを意識してはどうしていきたいと思います。」  
（小曾根小 女性）

「野澤先生のお話でいつも『うん、そうだ!!』と心の底から共感できるのが、『文学をとおして人間の教育をする』というところで。文学に出会い、文学を通して、自分を見つめ、自分の生き方を考える。私もそういう国語の授業がしたいです。子どもたちにそういう文学作品に出会わせてあげたいです。」  
（北丘小 女性）

と、多くの感想をいただきました。